

2018 年 日化協 LRI 研究報告会

日本化学工業協会(日化協)は、国際化学工業協会協議会(ICCA)の自主活動として、欧米の化学工業会とともに、化学物質の人健康や環境に及ぼす影響に関する研究を支援(LRI:Long-range Research Initiative)しています。この LRI の活動を広く皆様に知っていただく取り組みの一つとして、毎年夏に研究報告会を開催しており、

今年度は、8月31日(金)に、東京証券会館にて開催しました。昨今関心の高いマイクロプラスチック問題をシンポジウムのテーマに取り上げた今年の報告会には、昨年比で約50名増の214名の参加があるなど、多くの皆様に注目をいただきました。各セッションの発表やパネルディスカッションでは、それぞれ活発な意見交換や討論が行われ、盛況な研究報告会となりました。

午前の部では、日化協 LRI 賞^{*}受賞者講演として、2017 年度日本動物実験代替法学会日化協 LRI 賞の城西大学薬学部藤堂浩明准教授より「Utilization of Reconstructed Cultured Human Skin models as an Alternative Skin for Permeation Studies of Chemical Compounds」、続けて2018 年度日本毒性学会日化協 LRI 賞の岐阜薬科大学の中西剛教授より「核内受容体作動性ハザードによる生殖発生毒性およびその評価系構築に関する総合研究」と題し、それぞれLRI賞受賞に関わった研究内容について講演いただきました。

(^{*}日化協LRI賞は化学物質の安全性に関する研究で優れた業績を上げた研究者を表彰することを目的に2015年に日本毒性学会、2016年に日本動物実験代替法学会に、それぞれ賞を創設したものです。)

次に、LRI 活動の成果を広く知っていただくための新しい試みとして、2017 年度(第5期)に完了した研究の中から2題について、報告をいただきました。まず、三重大学大学院西村有平教授より「ゼブラフィッシュの神経分化を指標とする化学物質の発達神経毒性評価手法の開発」、続けて大阪大学大学院松浦秀幸招聘教員より「メコン川流域における複合的な環境汚染に対する新規網羅的モニタリングシステムの開発とその実効性の検証」と題して報告をいただきました。



藤堂 准教授



中西 教授



西村 教授



松浦 招聘教員

午前中最後のプログラムとして、日化協 LRI 事務局の半沢より、本年6月20日、21日にカナダのオタワで開催されたICCA-LRI ワークショップ(WS)参加報告が行われました。「Demonstrating 21st Century Methods and Critical Tools for Risk-Based Decisions」をテーマにした今年のWSには日米欧から約120名の研究者が参加し、リスクベースの意思決定に向けた新規評価手法開発の最新動向の共有と活用にむけた課題が議論されたことを半沢より紹介させていただきました。

昼休みには、ロビーにて現在採択中のLRI研究 12 課題の進捗状況を紹介する「ポスターセッション」が行われ、LRI の研究委託者と研究会参加者が熱心に直接意見を交わす光景がそこかしこで見られるなど、時間が足りなくなるほどの盛況でした。



午後の部では、「マイクロプラスチックの環境影響評価と LRI の取り組み」をテーマとしたシンポジウムを行ないました。地球規模の環境問題としてマイクロプラスチックへの関心が急速に高まるなか、日化協 LRI では本年度よりマイクロプラスチックをテーマにした研究を開始しております。本シンポジウムでは、現状への理解を深めるとともに、LRI での取り組みのあり方を議論しました。

<講演>

第 1 部では、日本プラスチック工業連盟の岸村専務理事を座長に迎え、国連や G7 等における国際議論を踏まえた全体の方向性、環境省研究プロジェクトなどの学会での取り組みならびに国内外の産業界の取り組みと LRI による研究事例について、産官学の関係者から講演いただきました。

- ・ 海洋ごみ・プラスチックに関する国際議論の動向
福島 健彦（環境省 地球環境局 国際連携課長）
- ・ 海洋プラスチック汚染に対する学界の取り組み
磯辺 篤彦（九州大学 教授）
- ・ ICCA及び日化協LRIでの取り組み
坂田 信以（日本化学工業協会 常務理事）
- ・ LRI採択研究の概要紹介 ～マイクロプラスチックの存在下、非存在下における魚類への生物蓄積と生物間濃縮に関する研究～
鑑迫 典久（愛媛大学 教授）



福島 課長



磯辺 教授



坂田 常務理事



鑑迫 教授

<パネルディスカッション>

講演の後、日化協坂田常務理事をファシリテーターとして、4 人の講演者に経済産業省岩谷課長補佐を加えた 5 人のパネリストにより、「優先すべき研究の範囲、「産官学の連携」を論点とするパネルディスカッションを行いました。優先すべき研究としてマイクロプラスチックの生成機構や水産物を通じた人健康への影響評価、また将来的には新素材開発のイノベーション推進等があげられ、また産官学の連携については、地球温暖化対策のようなグローバルな研究体制の必要性やプラスチックの専門家を有する産業界の積極的参画への期待が述べられました。



パネルディスカッション